

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣南高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年11月6日(月) 14:30~16:30
- 3 開催場所 大垣南高等学校会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者
会長 竹内 治彦 元岐阜協立大学学長(欠席)
委員 五十川智宣 大垣ケーブルテレビ取締役、同窓会副会長(欠席)
今村あおい (株)新生メディカル取締役社長(欠席)
川瀬 尚志 大垣南高等学校育友会会長
小林 月子 サンビレッジ国際医療福祉専門学校校長、元岐阜大学教育学部教授
小山亜希子 (社福) 楽山・杜の会理事
酒井 吾郎 洲本連合自治会長(欠席)
竹中 拓也 太平洋工業株式会社人事部主査
藤田万喜子 岐阜聖徳学園大学教育学部教授(欠席)
三輪 賢司 岐阜県公民館連合会会長、元岐阜県小学校校長
オブザーバー 伊藤 秀光 岐阜県議会議員(欠席)
学校側 川瀬 英樹 校長
滝 一男 教頭
古山 晴美 事務長
今枝 誠 教務課長
西脇 一徳 生徒指導課長
折山 真生 進路指導課長

5 会議の概要

(1) 生徒及び保護者等に対するアンケートの結果について

意見1: 本校では体罰がないのは良いことである。ただし、生徒が間違っことをしたときは、教員には厳しく指導をしてほしい。教員が指導を躊躇すると生徒の将来のためにも良くない。社会に出たときに注意されることへの耐性があったほうがよい。

意見2: 生徒会活動に対する評価が低いことが気になる。生徒会活動が充実したものになるとよい。

意見3: 育友会としてもアンケートの結果をしっかりと受け止め、課題意識を持っていきたい。

意見4: 昨年度と今年度で調査方法を変えているので、昨年度と今年度の結果の比較はあまり意味を持たない。

(2) 部活動等の結果について

意見1: 中学校では部活動が低迷している。その生徒たちが高校に入ってきたときにどのような状況になるか懸念はある。部活動での経験は貴重である。本校における部活動の加入率ほどの程度か。

⇒全校生徒の約8割が加入している。途中でやめる生徒もいるが、部活動をやりたくて本校を希望する生徒もいる。

(3) ふるさと教育、総合的な探究の時間の授業見学について

・本校のふるさと教育の実践について説明をし、その後、総合的な探究の時間の授業見学を行った。

意見1: 課題探究型学習はとても良かった。生徒からも前向きな発言が聞かれた。なぜそのテーマを選び、将来どのように活かしていきたいのかも聞くことができた。生徒たちがテーマを選び、考え、調べるきっかけを与えている。

意見2: グループによってカラーが出ていて興味深かった。黙々と調べているところもあれば、にぎやかにやっているグループもあり、主体的にできている様子でよかった。他の授業でつかめるものとはまた違った知識、経験が得られる授業である。ただ、教員の負担は大きいようである。

意見3: 町おこしについて探究していたグループではワークシートがあり、体系的な授業になっていた。西濃への観光客の誘致について調べていた。移住や定住したくなる町づくりにも取り組んでいけるとよい。また、中学校と高校で連携して取り組めるとよいのではないか。将来、本校の生徒の西濃地域での活躍に期待したい。

意見4: 課題探究型学習は素晴らしい取組である。ぜひ継続してほしい。企業の立場からも、高校時代にこのよ

うな経験をするのは良いことだと考えている。議論することや地域について知ることは大切である。地域課題探究型学習推進事業の指定校13校の中でコンクールのような形で競争や交流ができるとなお良いのではないだろうか。

6 会議のまとめ

- 新型コロナウイルス感染症への対策緩和に伴い、学校行事等をもう一度精査しながら必要なものを再開させてきており、生徒が活発に活動する姿が見られた。提示された意見を参考にして、今後の学校経営の再構築を模索する。
- 生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果の経年変化については、来年度以降に注視していく。